

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073500243		
法人名	社会福祉法人 千草会		
事業所名	グループホーム マイネスハウス ひなた庵		
所在地	〒819-1143 福岡県糸島市高上171番地 (電話) 092-329-1500		
自己評価作成日	平成 27 年 11 月 5 日	評価結果確定日	平成 28 年 2 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

雷山・可也山を一望する風光明媚な高台に位置しており、特別養護老人ホームの母体施設に隣接した日本家屋風の平屋一戸建ての施設。事業所内には池のある中庭があり囲むように薔薇館・百合館に分かれており何処からでも庭を眺めることができるようになっている。天井一つにおいても工夫がされている。自然豊かな地で、山々や緑の木々、春には桜の木が満開となるなど、心を癒しゆったりとした時間の中で生活して頂いている。また、開設時より身体拘束廃止を継続しており、鍵をかけない開放的な空間の中で、何処からでも出られるようになっており、利用者の人格及び尊厳を守っている。また、敬老会や夏祭りへの参加、ボランティアの訪問等、地域交流を図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 12 月 21 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲には田圃が広がり、静かで緑豊かな環境である。中庭には庭園がある。リビングや居室は解放感があり、照明の明るさも配慮され、ゆっくりとくつろげる空間づくりがなされている。研修体制が構築され、人権教育や身体拘束を行わないケアについて、法人全体で取組み、利用者の人権を尊重するため、サービスの質の向上に努めている。地域の持ち回りで介護教室を開催したり、地域と協力関係を築くよう、理念の実践に向けて取り組んでいる。病院との連携が図れている為、利用者・家族は安心感があり、看取りの体制もできている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく運営方針の中で「利用者が家庭的な環境の中で、地域との交流のもと生き生きとした日常生活を送る」を掲げて実践している。	事業所独自の理念がある。全職員が参加する法人全体の会議が月1回開催され、施設長から理念についての話が行われている。職員は理念を共通認識とし、日々のケアや地域との交流を行い、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創立祭や夏祭りを行っている。地域の皆さんの多くの来苑がありバザーなどを実施している。また地域の夏祭りや、行事に参加し地域との交流を図っている。	法人全体で作成した事業所便りを家族、市役所に配布している。地域の夏祭りや敬老会に利用者と一緒に参加している。法人主催の創立祭、文化祭、バザー等には多くの地域住民が参加し、近隣の高校生の太鼓や保育園からの慰問があり、地域との交流も積極的に行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接施設にて地域住民の方に対して、介護予防教室や地域包括支援センターの役割などの説明会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回定期的に自治会長・地域包括支援センター・家族代表の参加により事業所の運営・利用者の取り組み等を報告し、質問や意見、要望等を聞いて検討し、サービスの向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の家族や行政職員、区長等が参加している。事業所の取組やサービスの実際について報告が行われ、参加者より、季節に応じた外出先の提案があり、実際に利用者と外出したり、意見を取入れている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の避難場所にもなっているなど市町村との連携を図っている。また、糸島地域包括支援センターより運営推進委員会に出席を得ている。	他の事業所の取組等の情報収集を行ったり、事業所便りを市役所に持参し、法人全体の実情を報告する機会がある。地域の持ち回りで介護教室が開催され、行政職員や地域住民の参加があり、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設開設以来、施設長の理念と方針のもと身体拘束は一切行っていない。身体拘束廃止マニュアル、委員会を設置し全体会議にて職員の周知徹底を行っている。	居室、玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、外に出たい時は止める事なく、着着くまで付添いを行っている。法人で身体拘束委員会があり、身体拘束について話し合う機会を設けている。法人全体の会議の中で研修会が開催され、施設長からも折に触れて話があり、身体拘束をしないケアが実践されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を行い、高齢者虐待についての理解や高齢者虐待防止についての取り組みについて検討、話し合いを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度については全体会議や部署会議にて内部研修を実施している。契約時には、利用者や家族に権利擁護についての説明を行い必要に応じて相談を受けている。	管理者は制度に関して、入所契約時に、表を使用し家族に解りやすく説明している。職員は法人の全体会議での内部研修会で制度について学ぶ機会がある。制度に関するテキスト、研修記録、報告書が整備されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、説明を行い、理解・納得された上で契約・同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、利用者・家族に説明を行い、苦情受付箱の設置、運営推進会議等への家族の参加により、その都度質問や意見等を尋ねている。また第三者委員会の設置、連絡先を明示し公的相談窓口の紹介もしている。	利用者は職員との日々の会話を通して意見を伝える機会がある。利用者や家族から意見が出れば、事業所の会議で議題に取上げ検討を行っている。鍋が食べたいとの意見が出た時は、食事に鍋を提供し、意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・部署会議等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	管理者は入職後間もない職員に対して特に話をしよう心がけている。職員から利用者のケアについて意見が出れば、事業所の会議で議題に取上げている。法人全体で職員に対しアンケート調査を行い、福祉用具の購入希望などの意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように給与面や職場環境条件等を考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあつては、適性を考慮し、年齢や性別等の理由で排除されないようにしている。本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員がスキルアップできるように各資格取得にも配慮している。	職員の採用について、特に制限を設けていない。職員から異動や勤務時間帯変更の希望が出れば、配慮している。職員の資格獲得に向けた希望休なども取りやすい環境となっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発のため、全体会議や部署会議等において研修の機会を設け、職員の周知徹底を行っています。	人権教育に関しては、法人全体の会議で内部研修が行われている。研修の中で、施設長が積極的に話しを行い、利用者に対する人権を尊重するための啓発活動が積極的に行われ、サービスの質の向上に繋がっている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外部研修への参加、全体会議にて研修報告を行っている。また緊急時の対応や認知症について、感染症について等の勉強会を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設とともに西部ブロックにおいて交歓大会やベタンク大会、職員レクに参加するなど連携・協力体制を築いている。また地域の清掃活動などに参加し、サービス向上のための情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、ご家族の聞き取りを行い入居に至る経緯や今までの生活環境や趣味、対人関係などバックグラウンドを把握するようにし初期段階でのケアに活かして利用者とのコミュニケーションに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時には家族の不安に思っている事や悩みや要望を聞いている。出来る限り家族の不安や悩みを解消出来るように個別に合わせたケアを実践を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族より相談を受け相談内容から何を必要とされているかを見極めて対応、支援を行っている。また他の事業所や居宅介護支援センター等との連携を図り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、介護する・される関係だけではなく生活していく中で、一緒に洗濯物を畳んで頂くなど協力して頂きながら過ごして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子・変化等を面会時や電話にて伝えている。お正月やお盆には自宅で過ごされる時間がとれるよう連絡とっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や親戚、友達の方が面会に来られている。また電話で御兄弟やご家族との電話をいつでも出来るように支援している。また外出で自宅や本人が行きたい場所へ行けるように支援している。	利用開始前に利用者や家族から馴染みの場所や人について情報収集をしている。知り合いの同敷地内のデイサービス利用者に会いに行ったり、手紙や電話をかける援助をしている。化粧やマッサージのボランティアにきてもらい、馴染みの人との関係が継続できるように援助している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同市の自然な関わりを大切に、お互いに支えあい、協力し合って日々の生活を送れるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所への入居や入院時、契約を解約した際、経過や状態の報告を行い支援体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の関わりの中で一人一人の思いを把握するように努め支援を行っている。意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草などを察するとともに、ご家族からの情報を得て、本人の思いに添うように支援を行っている。	利用者の思いや要望が引き出せるように、日常生活の中で声かけや様子確認を行っている。意思表示が難しい利用者には、表情や利用者の行動から思いをくみとったり、家族や知人から情報を得ている。利用者から帰りたいと希望があるときは、家族に連絡をして外出を協力してもらおう等利用者の思いの添えるようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や初回ケア会議において、利用者の生活歴や生活環境等の情報をもとにバックグラウンドを把握し、利用者のケアに繋げている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態を把握し、本人の出来る事と出来ないことを見極め、役割を持ちそれぞれの自立支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回、または状態の変化、状況に応じて、利用者・家族・施設長・職員と共にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。	利用者の担当職員が本人や家族の要望を確認し、全職員や必要時看護師や医師の気づきや意見をとりまとめ、計画作成担当者が介護計画を作成している。ケア会議を開催し、家族に説明後、了承した署名と印鑑をもらっている。6か月毎、または利用者状態変化時介護計画を見直し、その都度家族に報告している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護経過記録、モニタリングシートを介護計画の見直しに活用し、再アセスメントを行っている。また、職員間でのケアの情報を共有し、実践に繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方が通われているデイサービスへ談話に行かれ、懐かしいお話をされるなど他の利用者との交流を行っている。また、利用者の心身の状況やご家族の希望により、特別養護老人ホームへの入居。見学の対応も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方によるセラビューティックケア（マッサージ）、お化粧のボランティア活動に定期的に来て頂き、利用者の楽しみと交流支援を頂いている。地域の文化祭などの行事への参加もさせて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院（24時間）・月2回の歯科往診にて継続的に適切な医療が受けられるように支援している。また必要に応じて協力病院への受診、付き添いを行っている。	利用開始時に今までの受診経過や受診希望を確認している。週1回往診があり、医師より指示がある。協力病院以外の受診は、緊急時以外は家族に付き添いの協力を依頼している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として週2回看護師が非常勤にて勤務している。日常の健康状態のチェックを行っており、併設施設の看護師とも連携体制を図り、健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、情報提供やケアの協力を行っている。入院中のお見舞いやご家族との連絡を取り、状態の把握に努めている。また、医療機関と連携をしながら退院に向けた体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する方針、対応について定め方針を共有している。入居時に重度化した場合の意向を確認している。また医師の診断があった際にはターミナル会議を行い、ご家族・施設長・看護師・介護士等で説明、意向・今後について検討していく。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針が明文化されており、契約時に説明と意思確認書を記載してもらっている。看取りになった場合、看取り介護の同意書を記載してもらい、状況変化に応じて家族・利用者・職員や医師で話し合い、全員で方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方法・事故発生時の方法を含め、初期対応・連絡方法を職員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、母体施設と共に消防避難訓練を実施している。また地域の消防団への連絡体制も取っている。非常用食品・飲料水・備品等準備し災害時には対応出来るように対策を取っている。	災害マニュアルを作成してある。年2回法人内で消防署に協力のもと避難訓練がされている。地域住民に声かけはしているが、参加はあまりない。非常用の食料品は特養に、それ以外の備品は事業所内に準備されている。	非常用食品・飲料水を事業所内に準備されることをお願いしたい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や性格を把握し、尊重しながら利用者自身のその人らしさを損ねないようにプライバシーの確保に努めている。	利用者の人格や性格、プライバシーを配慮しながら、声かけや介護がされている。日々の職員と利用者に関わり方を常に管理者が点検し、内部研修で施設長より人格とプライバシーの確保について、十分な研修がされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の思いや好み希望を聞いて、それぞれが選択出来るように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは一応決まっているが、利用者一人ひとりのペースに添ったケアを行うようにしている。起床時間や食事の時間や場所等も希望に応じて変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで日々の衣類選び、月一回のお化粧ボランティアに来ていただきメイクやマニキュア等を楽しまれている。希望に合わせてご家族と行きつけの美容室へ行かれてパーマや髪を染められる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立表をもとに、利用者と一緒に準備から後片付けまで行っている。食事中は、音楽を流して落ち着いた雰囲気の中で食事ができる様に配慮している。	食事の調理の下ごしらえや食器拭きを利用者が一緒に行う。献立は利用者の意見を取り入れて作成している。はし・お茶碗・コップは持参した自分のものを使用している。畑でとれたしそ・野菜や施設で飼っている烏骨鶏が産んだ卵を調理に使用したり、庭の杏の実でシロップ漬けを利用者と一緒に行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に配慮して献立を作成している。食事・水分摂取量のチェックを行い、一日の摂取量が把握できる。また利用者の嗜好調査を行い、利用者に合わせた食事形態で提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを行い、口臭予防や清潔保持に努めている。協力病院の歯科往診にて口腔内のケアについて相談や適切な指導を受ける環境を整えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入により間隔や量を把握して事前のトイレ誘導を心掛けている。トイレでの排泄支援に努めている。使用オムツやパットは昼夜の時間を考慮し、家族とも検討して適切なものを選択している。	利用者の排泄パターンや個々の排泄のサインを把握し、トイレ誘導を行っている。利用者の状況に合わせて、オムツやパットの種類や時間帯の見直しをしている。利用者が失禁した時は羞恥心や周囲に配慮しながら、さりげなく手早く対応するようにしている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘予防の為に、体操やストレッチ体操等で適度な運動を行っている。また牛乳や繊維の多い野菜など献立に取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴を行っているため希望された時に入浴ができるようにしている。入浴前にはバイタル測定を行い、体調や希望を聞いている。個別に合わせて対応している。入浴拒否がある利用者には、声掛けやタイミングを図る等、強制的にならないようにしている。	ほぼ毎日入浴できるように準備をしている。利用者の希望や生活習慣に合わせて、週3回は入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、仲がよい利用者と一緒に入浴をしてもらったり、声かけの仕方やタイミングを配慮している。柚子湯や菖蒲湯をしたり、湯船に入ったら窓より竹が見える造り等入浴を楽しんで頂ける工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や睡眠パターンを把握している。朝食後の休息、昼寝をしたり、ベッドで横になられたりと利用者の希望に沿った対応をしている。また、ホールソファでも休息や仮眠が取れるようにクッションや毛布を準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように、利用者一人ひとりの処方箋をファイリングして所定の場所に置いている。処方箋に変更があった場合は、各職員に申し送りを行っている。毎回服薬チェック表に記入し、服薬の間違いがないように十分注意している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には食器拭きや洗濯物たたみ等の日常生活における仕事の役割を持って頂いている。その他、趣味のスポーツ観戦やメドマーなど興味のあることや好きなことをして頂いて楽しみが出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて園庭や近所へ散歩に行ったり、花見、コスモス見学等外出する機会を作り、気分転換が出来る様に支援している。家族が自宅へ帰られたり、祭りに参加されるなど、家族の協力体制も出来ている。	利用者の希望を取り入れながら、外出の支援をしている。気候がいい時期は天候がよければ、ほぼ毎日散歩に行っている。3～4か月に1回ドライブで初詣や海岸・花見等に行っている。外食や買い物は家族の協力を得て一緒に外出されることが多い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人希望に（管理できる人）によりご自分で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話があり、自由に電話出来る様になっている。ご家族からの電話も取次ぎゆっくりとお話されている。手紙やハガキもご家族や知り合いに書くように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全てバリアフリーになっていて車椅子・歩行器でも自由に動けるようになっている。日中過ごされるホールは台所が対面式になっている。	リビングは明るく、開放的な空間となっている。写真や利用者が作成した編み物の作品等馴染みの物が飾られている。廊下やリビングには、ソファや椅子が設置され、くつろげる場所がある。カーテンで光の強さは調整されている。音楽や職員の声も調度よい。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのホールソファにて、廊下には椅子を配置し、ベランダにもテーブル・椅子を配置し、好きな場所で過ごせるように配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に今まで使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂き、家族との写真等を置いて心地よく過ごせるように家族と共に部屋作りを行っている。	居室内は収納家具がそなえつけられているが、馴染みの家具・写真・ぬいぐるみ・テレビが持ち込まれ、利用者らしさがでて、居心地がよい居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとなっていて、車椅子でもゆっくり移動出来る様に十分な広さと段差のない作りになっている。一人ひとりの身体機能に合わせたベットや家具の配置を考慮し、安全で自立した生活が出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が
			○	② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく運営方針の中で「利用者が家庭的な環境の中で、地域との交流のもと生き生きとした日常生活を送る」を掲げて実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	創立祭や夏祭りを行っている。地域の皆さんの多くの来苑がありバザーなどを実施している。また地域の夏祭りや、行事に参加し地域との交流を図っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設にて地域住民の方に対して、介護予防教室や地域包括支援センターの役割などの説明会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に自治会長・地域包括支援センター・家族代表の参加により事業所の運営・利用者の取り組み等を報告し、質問や意見、要望等を聞いて検討し、サービスの向上に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の避難場所にもなっているなど市町村との連携を図っている。また、糸島地域包括支援センターより運営推進委員会に出席を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設開設以来、施設長の理念と方針のもと身体拘束は一切行っていない。身体拘束廃止マニュアル、委員会を設置し全体会議にて職員の周知徹底を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年に2回行い、高齢者虐待についての理解や高齢者虐待防止についての取り組みについて検討、話し合いを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業、成年後見制度については全体会議や部署会議にて内部研修を実施している。契約時には、利用者や家族に権利擁護についての説明を行い必要に応じて相談を受けている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、説明を行い、理解・納得された上で契約・同意書を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、利用者・家族に説明を行い、苦情受付箱の設置、運営推進会議等への家族の参加により、その都度質問や意見等を尋ねている。また第三者委員会の設置、連絡先を明示し公的相談窓口の紹介もしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・部署会議等で職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように給与面や職場環境条件等を考慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、適性を考慮し、年齢や性別等の理由で排除されないようにしている。本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、職員がスキルアップできるように各資格取得にも配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発のため、全体会議・部署会議等において研修の機会を設け、職員の周知徹底を行っています。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外部研修への参加、全体会議にて研修報告を行っている。また緊急時の対応や認知症について、感染症について等の勉強会を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設とともに西部ブロックにおいて交歓大会やベタンク大会、職員レクに参加するなどし連携・協力体制を築いている。また地域の清掃活動などに参加し、サービス向上のための情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者、ご家族の聞き取りを行い入居に至る経緯や今までの生活環境や趣味、対人関係などバックグラウンドを把握するようにし初期段階でのケアに活かして利用者とのコミュニケーションに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時には家族の不安に思っている事や悩みや要望を聞いている。出来る限り家族の不安や悩みを解消出来るように個別に合わせたケアを実践を心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族より相談を受け相談内容から何を必要とされているかを見極めて対応、支援を行っている。また他の事業所や居宅介護支援センター等との連携を図り対応している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が、介護する・される関係だけではなく生活していく中で、一緒に洗濯物を畳んで頂くなど協力して頂きながら過ごして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活の様子・変化等を面会時や電話にて伝えている。お正月やお盆には自宅で過ごされる時間がとれるよう連絡とっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や親戚、友達の方が面会に来られている。また電話で御兄弟やご家族との電話をいつでも出来るように支援している。また外出で自宅や本人が行きたい場所へ行けるように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同市の自然な関わりを大切に、お互いに支えあい、協力し合って日々の生活を送れるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所への入居や入院時、契約を解約した際、経過や状態の報告を行い支援体制を整えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、日々の関わりの中で一人一人の思いを把握するように努め支援を行っている。意思疎通が困難な利用者は、表情や仕草などを察するとともに、ご家族からの情報を得て、本人の思いに添うように支援を行っている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時や初回ケア会議において、利用者の生活歴や生活環境等の情報をもとにバックグラウンドを把握し、利用者のケアに繋げている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態を把握し、本人の出来る事と出来ないことを見極め、役割を持ちそれぞれの自立支援に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回、または状態の変化、状況に応じて、利用者・家族・施設長・職員と共にケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護経過記録、モニタリングシートを介護計画の見直しに活用し、再アセスメントを行っている。また、職員間でのケアの情報を共有し、実践に繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方が通われているデイサービスへ談話に行かれ、懐かしいお話をされるなど他の利用者との交流を行っている。また、利用者の心身の状況やご家族の希望により、特別養護老人ホームへの入居。見学の対応も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方によるセラビューティークケア（マッサージ）、お化粧のボランティア活動に定期的に来て頂き、利用者の楽しみと交流支援を頂いている。地域の文化祭などの行事への参加もさせて頂いている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院（24時間）・月2回の歯科往診にて継続的に適切な医療が受けられるように支援している。また必要に応じて協力病院への受診、付き添いを行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの職員として週2回看護師が非常勤にて勤務している。日常の健康状態のチェックを行っており、併設施設の看護師とも連携体制を図り、健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、情報提供やケアの協力を行っている。入院中のお見舞いやご家族との連絡を取り、状態の把握に努めている。また、医療機関と連携をしながら退院に向けた体制を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する方針、対応について定め方針を共有している。入居時に重度化した場合の意向を確認している。また医師の診断があった際にはターミナル会議を行い、ご家族・施設長・看護師・介護士等で説明、意向・今後について検討していく。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、緊急時の対応方法・事故発生時の方法を含め、初期対応・連絡方法を職員に周知徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、母体施設と共に年2回の消防避難訓練を実施している。また地域の消防団への連絡体制も取っている。非常用食品・飲料水・備品等準備し災害時には対応出来るように対策を取っている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や性格を把握し、尊重しながら利用者自身のその人らしさを損ねないようにプライバシーの確保に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の思いや好み希望を聞いて、それぞれが選択出来るように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは一応決まっているが、利用者一人ひとりのペースに添ったケアを行うようにしている。起床時間や食事の時間や場所等も希望に応じて変更している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで日々の衣類選び、月一回のお化粧ボランティアに来ていただきメイクやマニキュア等を楽しまれている。希望に合わせてご家族と行きつけの美容室へ行かれてパーマや髪を染められる方もおられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士が作成した献立表をもとに、利用者と一緒に準備から後片付けまで行っている。食事中は、音楽を流して落ち着いた雰囲気の中で食事ができる様に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に配慮して献立を作成している。食事・水分摂取量のチェックを行い、一日の摂取量が把握できる。また利用者の嗜好調査を行い、利用者に合わせて食事形態で提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを行い、口臭予防や清潔保持に努めている。協力病院の歯科往診にて口腔内のケアについて相談や適切な指導を受ける環境を整えている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の記入により間隔や量を把握して事前のトイレ誘導を心掛けている。トイレでの排泄支援に努めている。使用オムツやパットは昼夜の時間を考慮し、家族とも検討して適切なものを選択している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘予防の為に、体操やストレッチ体操等で適度な運動を行っている。また牛乳や繊維の多い野菜など献立に取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ほぼ毎日入浴を行っているため希望された時に入浴ができるようにしている。入浴前にはバイタル測定を行い、体調や希望を聞いている。個別に合わせて対応している。入浴拒否がある利用者には、声掛けやタイミングを図る等、強制的にならないようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や睡眠パターンを把握している。朝食後の休息、昼寝をしたり、ベッドで横になられたりと利用者の希望に沿った対応をしている。また、ホールソファでも休息や仮眠が取れるようにクッションや毛布を準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が把握できるように、利用者一人ひとりの処方箋をファイリングして所定の場所に置いている。処方箋に変更があった場合は、各職員に申し送りを行っている。毎回服薬チェック表に記入し、服薬の間違いがないように十分注意している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には食器拭きや洗濯物たたみ等の日常生活における仕事の役割を持って頂いている。その他、趣味のスポーツ観戦やメドマーなど興味のあることや好きなことをして頂いて楽しみが出来る様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に応じて園庭や近所へ散歩に行ったり、花見、コスモス見学等外出する機会を作り、気分転換が出来る様に支援している。家族が自宅へ帰られたり、祭りに参加されるなど、家族の協力体制も出来ている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者本人希望に（管理できる人）によりご自分で管理して頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設内に公衆電話があり、自由に電話出来る様にしている。ご家族からの電話も取次ぎゆっくりとお話されている。手紙やハガキもご家族や知り合いに書くように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、全てバリアフリーになっていて車椅子・歩行器でも自由に動けるようになっていて、日中過ごされるホールは台所が対面式になっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースのホールソファにて、廊下には椅子を配置し、ベランダにもテーブル・椅子を配置し、好きな場所で過ごせるように配置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に今まで使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂き、家族との写真等を置いて心地よく過ごせるように家族と共に部屋作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム全体がバリアフリーとなっていて、車椅子でもゆっくり移動出来る様に十分な広さと段差のない作りになっている。一人ひとりの身体機能に合わせたベットや家具の配置を考慮し、安全で自立した生活が出来るようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない